HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS NEWSPAPER

ひろしま郷土資料館だより No.94

平成29年度　企画展「民具の魅力」展示風景

企画展「民具の魅力」

会期：平成29年4月26日（水）～平成29年7月9日（日）

私たちは生活の中で、さまざまな道具を使っています。例えば、台所で使うものだけでも、およそ200種類以上のものがあるといわれ、生活に欠かせない日用品は数えきれないほどあります。そしてこれらは、私たちにとって、とても身近なものです。昔から使われ、伝えられてきた日用品の中には、時代の流れとともに使われなくなったものもあれば、今なお使われているものもあります。これらを見つめることで、人々のくらしのあり方やさまざまな知恵を学ぶことができます。企画展『民具の魅力』では、当館所蔵の資料を中心に、衣食住に関わる民具約90点をとりあげ、生活の中で培われてきた知恵や工夫、そして民具の魅力をご紹介しました。

【P2につづく】

目次

P 1-3　企画展「民具の魅力」
P 4　企画展「夏休みおばけの博物館」
P 5　イベント「プロジェクションマッピングin郷土資料館」
P 6　イベント「郷土資料館被爆建物案内」
P 6　ミニ展示「宇品凱旋館模型展示」
P 7-9　活動報告（平成29年4月～9月）
P 9　博物館実習・インターンシップ
P 10　平成29年度後期イベント情報

古くから人々は自然のはたらきを上手に利用し、身の回りにある材料で知恵をしぼって道具をつくるなど、少しでも快適に暮らせるように工夫してきました。

住まいの工夫として、ひとつには高温多湿の日本の夏を快適にすごすための工夫がありました。昔ながらの日本家屋は、木材などの自然素材で作られています。木や紙などの素材は、熱を逃がしやすく、自然に湿度を調節する効果があるため、夏の暑さを和らげることができます。また、部屋の仕切りには取り外しのできる襖や障子などの建具が使われました。建具を外すと部屋を広く使えるだけでなく、風通しもよく、涼しくすごすことができます。また、このように、移り変わる季節によって、部屋のしつらえを手軽に替えることができる点も、住まいの工夫のひとつといえます。

一方で、風通しがよい日本家屋は冬が寒く、様々な暖房具が考え出されました。現在では、ストーブやエアコンなどで部屋全体を暖めることが多いですが、昔は火鉢や湯たんぽなど、体の一部分をあたためる暖房具が重宝されていました。

食生活については、電気やガスがなかった時代、カマドや囲炉裏で火をたいて料理をしていました。カマドは羽釜や鍋などをかけて、下からマキなどで火を燃やしてごはんや汁物などの料理を作る時に使います。「へっつい」や「くど」という呼び方もありました。カマドには炊き口の数によって一口カマドや二口カマドなどがあり、家族の人数が多い家は、炊き口の多いカマドが便利でした。

体の一部分をあたためる湯たんぽ

羽釜は、ごはんを炊く時に使いました。胴の部分にひさしのように出た部分があることから、「鍔釜（つばがま）」ともいい、羽釜をカマドにかけて使う時、鍔に引っ掛けるようにして置きます。この時、カマドの焚き口の隙間を羽釜の鍔がピッタリと塞ぐため、カマドの熱を逃がさない効果があります。同時に、カマドの中の灰が上に舞い上がるのを防ぎます。羽釜の底は、熱がムラなく伝わるように丸い形に整えられており、フタは炊飯時に蒸気をのがさず、吹きこぼれにくいように、重たく作られています。これらのことは、火を上手に利用し、効率よく食材を調理するための工夫といえます。

胴の周囲に鍔（羽）がついた羽釜

また、食生活の工夫として、日本では古くから穀物や野菜、魚介類や果物などを保存するいろいろな方法が伝えられてきました。中でも、魚介類や野菜、果物などを干して乾燥させる方法は簡単にできるため、盛んに行われました。漬物など塩や酢、糠（ぬか）などに漬けて保存する方法や、味噌など発酵させるもの、囲炉裏などの煙でいぶして保存する方法もありました。山村などでは、ワラビやゼンマイ、フキなどの山菜や大根を塩漬けにしたり、干して蓄えておくなど、その土地の風土に合わせた保存食が作られました。

また、酒や醤油、味噌や漬物などの保存食の運搬や貯蔵の容器として重宝されたのが樽（たる）でした。

古くは酒を注ぐための容器で、注ぎ口から酒がたれる「たり」が「たる」に変化したといわれています。室町時代に短冊形の板をタガで留める結桶（ゆいおけ）が作られるようになり、樽にもその製法が使われました。この作り方は、一部が壊れても修理しやすく、均等なサイズの入れ物を作ることができたため便利でした。樽には簡単に外れない「鏡」といわれる蓋があり、中のものを密閉して保存することができます。昔は各家庭で自家製の味噌や醤油を作って貯蔵しておくことも多く、保存に役立ちました。優れた容器である樽は今も様々な場所で使われています。

歯の入れ替えができる差歯下駄

衣生活については、古くからの日本の装いである着物が、昭和の半ばまで日常着としても使われ、手入れも多くは家庭で行われていました。着物は、直線的な仕立てでゆったりとした作りになっているため、さまざまな体型の人に対応することができます。そのため、着回しに便利で、古着が盛んに利用されました。また、着物は縫ったりほどいたりしやすく、リサイクルの面でも優れていました。同じ一枚の着物も、夏は単（ひとえ）に、冬は裏地を付けて着ることもありました。また、大人の着古したものを利用して子ども用に仕立て直したり、布が擦り切れたら、切っておむつや雑巾にしたり、下駄や草履の鼻緒などにし、最後は燃料や肥料として大切に使いました。履物にはイグサや藁（わら）、木などを原料にした草履や下駄が使われました。下駄は、親指をひっかける鼻緒を通す穴が中央にあるため、下駄の左右を入れ替えて履くことができます。また、歯が入れ替えられるようになっている差歯下駄は、歯がすり減ってくると、左右の向きや前後の歯を入れ替えて履くことができました。下駄や歯の部分を入れ替えて履くことで一部分だけが偏って削れないよう工夫し、長く履くことができました。また鼻緒は布などでできており、傷んだら鼻緒の部分だけを取り替えて使いました。草履や下駄は足を覆わず、通気性が良いので、日本の気候に合った履物であり、現在まで長く使われています。

展示風景。衣食住に関わる民具約90点を展示

今回、とりあげることができたものは多くの民具の中のほんの一部ですが、それぞれに長い歳月の中で培われた知恵や工夫が生かされていることがわかります。自分の身近な道具についても調べてみると、今まで知らなかった魅力を発見できるかもしれません。

会期中の来館者数：2,181人

（正連山　恵）

企画展「夏休みおばけの博物館」

会期：平成29年7月21日（金）～平成29年8月27日（日）

豆腐小僧の立体模型

企画展「夏休みおばけの博物館」では、写真パネルや解説パネルをとおして、おばけの多様な世界、おばけを生み出した昔の人々の生活、広島の妖怪事件などを紹介しました。また、照明を暗くして怪しい演出を施した展示室に妖怪の立体模型を展示し、おばけ屋敷を追体験していただきました。

立体模型は毎年製作していますが、今年度は子ども達に人気の「豆腐小僧」を造りました。モデルにしたのは、天明8年（1788）に板行された黄表紙『夭怪着到牒』に描かれた図で、大きな頭に笠をかぶり、豆腐を載せたお盆を持っている姿を立体化しました。さらに、展示室入口では、過去に製作した妖怪の立体模型（「唐傘おばけ」と「瀬戸大将」）に登場していただき、記念撮影コーナーを設けました。

さて、今年度も広島の妖怪事件について紹介しましたが、そのなかで担当者イチ推しのユニークな妖怪について紹介したいと思います。この妖怪は、幕末頃の医師・進藤寿伯が記した記録『近世風聞耳の垢』に見られるもので、宝暦12年（1762）2月25日の夜、広島城外曲輪の狸小路（現在の中区基町9丁目内に存在した小路）で帰宅中の武士を襲ったとされます。ユニークなのはその容姿と行動で、襲ったのは竹馬に乗った二人の女で、その顔は口が耳元まで裂けており、女が文治の体をねぶる（舐める）と文治は気を失ったとされます。昭和の都市伝説「口さけ女」と似た人物像、体を舐めるという気持ち悪さ、今日の恐怖映画でも通用しそうな不気味さです。このほか、享和元年（1801）に五日市村（現在の佐伯区五日市）で発見されたとされる「雷獣」（『閑田次筆』『近世風聞耳の垢』）、明和3年（1766）に白島（詳細な場所は不明。現在の中区白島地域）の武家屋敷に現れた「猫又」（『近世風聞耳の垢』）など、10例を紹介しました。これらの妖怪が現れたのは広島市民にとって身近な場所ですが、あまり知られていないため、多くのお客様が熱心にパネルを読まれていました。

会期中の来館者数：9,099人　　（篠原　達也）

瀬戸大将と唐傘おばけ（記念撮影コーナー）

広島の妖怪事件を紹介した解説パネルを見る親子連れ

イベント「プロジェクションマッピング in 郷土資料館」

会期：平成29年8月19日（土）～平成29年8月27日（日）

郷土資料館では夏休みの最後を飾るビッグイベントとして、「プロジェクションマッピング in 郷土資料館」を実施しました。プロジェクションマッピングとは、大型プロジェクターを用いて写真やコンピュータグラフィックスなどの映像（動画・静止画）を建物や立体物に投影する映像技術のことです。プロジェクションマッピングと言えば、夜間に建物に投影するイベントが良く知られていますが、当館では常設展示室に展示してある川舟（大船）の帆、さらに展示室の壁面の２か所に投影しました。また、できるだけ多くの人に見ていただきたいという思いから、会期中は一日11回上映することとしました。

投影コンテンツについては、郷土資料館らしさを表現すること、川船の帆に投影すること、この２点を考慮し、太田川によって育まれた都市広島の歩みを紹介することとしました。製作は広島国際アニメーションフェスティバルなどで活躍されているデジタルクリエイターに委託し、古代から現代までの各時代の特徴を示す出土品・肖像画・古絵図・古写真などの画像を用い、約10分間の作品を作っていただきました。

暗闇の中で音楽とともに映し出された映像は幻想的で非常に美しく、多くのお客様がひとときの時間旅行を楽しまれたようです。

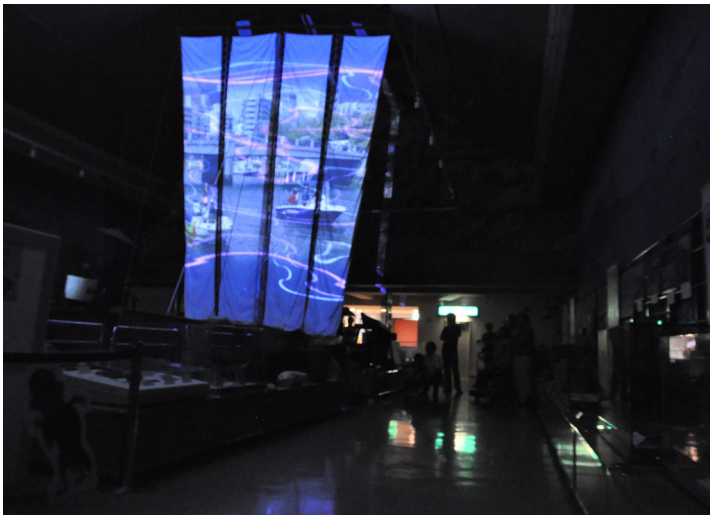
なお、このイベントはすでに終了しましたが、その実施状況を記録した映像が動画共有サイト「you tube」（https://www.youtube.com/?gl=JP&hl=ja）で視聴できます。トップページで「広島市郷土資料館」と検索すると、次の３つの動画が視聴できます。

・広島市郷土資料館「プロジェクションマッピング in 郷土資料館」
・広島市郷土資料館 360° VR動画　プロジェクションマッピング①
・広島市郷土資料館 360° VR動画　プロジェクションマッピング②

見逃した方、もう一度見たい方は是非ご覧ください。パソコンはもちろん、スマートフォンでも視聴可能です。

期間中の来館者数：2,218人

（篠原　達也）



川舟の帆に投影された映像

壁面と川舟の帆に投影された映像

イベント「郷土資料館被爆建物案内」

実施日：平成 29 年 8 月 6 日（日）

折れ曲がった鉄骨を見ながら説明を聞いている大使のみなさん

焼きたてが大好評「一銭洋食」

8月6日の原爆記念日に、広島市の平和関連事業の一環として、被爆建物である当館の建物（旧宇品陸軍糧秣支廠罐詰工場）について案内を行いました。当館は明治44年（1911）の竣工ですので、原爆投下時は築後34年たっており、その後72年の歳月が流れました。

当日は、当館のエントランスにある原爆の爆風で折れ曲がった天井の鉄骨なども見ながら解説を行いました。また、2階講堂では、戦中戦後の食糧難の中で食べられた「江波団子」や「一銭洋食」の試食、宇品港から出港する兵士やそれを見送る人々の姿をとらえた貴重な映像を見ていただきました。

今年は、平和記念式典に参加された各国駐在日本大使の方々も見学に来られ、国際色豊かなビッグイベントとなりました。

（河村　直明）

ミニ展示「宇品凱旋館模型展示」

会期：平成29年6月9日（金）～平成29年8月15日（火）

会期中来館者数：7,292 人

会場：郷土資料館 1 階展示ロビー

宇品凱旋館は宇品港（現在の広島港）から出征・帰還する将兵や傷病者の歓送迎・慰安のための施設として昭和14年に建てられ、被爆当時は陸軍船舶部隊（暁部隊）を統括指揮する陸軍船舶司令部が置かれるなど、軍都広島・軍用港宇品を象徴する建物のひとつでした。今回の展示では、岡山理科大学李明研究室によって製作された宇品凱旋館の1/100模型を解説パネル８枚、関連実物資料５点、模型製作過程を示す写真６点とともに展示しました。

ミニ展示「宇品凱旋館模型展示」の展示風景

（村上　宣昭）

活動報告

平成29年4月～平成29年9月

教室事業（人数は参加者数）

4月15日（土）	親子教室「和菓子作り」	25人
4月29日（土・祝）	教室「かしわもち作り」	23人
6月 3日（土）	教室「藍でハンカチ染め」	28人
6月18日（日）	大人向け教室「藍染めＴシャツ作り」	19人
6月24日（土）	教室「藍染めＴシャツ作り」	31人
7月 1日（土）	教室「七夕飾り作り」	10人
9月 8日（金）	大人向け教室「大人の染色体験」	23人
9月30日（土）	教室「月見団子作り」	20人

親子教室「和菓子作り」

教室「藍染めＴシャツ作り」

夏休みわくわくイベント（人数は参加者数）

7月25日（火）	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」（メンコ・竹ぽっくりなど）	66人
7月26日（水）	〃　〃	105人
7月27日（木）	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」（コマ・フラフープなど）	81人
7月28日（金）	〃　〃	107人
7月30日（日）	「ファイヤーバンドふれあいコンサート」	84人
8月 1日（火）	遊びの広場「昔の遊びをやってみよう！」（けん玉・輪投げなど）	102人
8月 2日（水）	〃　〃	61人
8月 3日（木）	カンタン工作「クルクルかざぐるま」	74人
8月 4日（金）	〃　〃	62人
8月 8日（火）	カンタン工作「わくわく回転ゴマ」	91人
8月 9日（水）	〃　〃	98人
8月10日（木）	〃　〃	120人

8月11日（金・祝）	カンタン工作「打上げラワン」（講師：渡辺吉雄氏）	150人
8月15日（火）	カンタン工作「手作りカッコウ笛」	116人
8月16日（水）	〃　　〃	126人
8月17日（木）	カンタン工作「フラワーふきあげパイプ」	73人
8月18日（金）	〃　　〃	91人

ひろしま郷土史講座（人数は参加者数）

5月20日（土）	第１講「広島の町名」	44人
5月27日（土）	フィールドワーク１「南区段差めぐり」	19人
6月10日（土）	第２講「広島の遺跡と古代の交通路」	45人
7月 8日（土）	第３講「広島の橋の歴史」	49人

ファイヤーバンドふれあいコンサート

ひろしま郷土史講座　第１講「広島の町名」

その他の事業・館外活動（カッコ内は主催者あるいは事業名、人数は参加者数）

4月12日（水）	講演「わが町の歴史を知ろう」（幟町地区老人クラブ連合会）	40人
4月21日（金）	講演「買物案内記について」（広島東ロータリークラブ）	49人
4月24日（月）	講演「広島の成り立ちと歴史さんぽ」（宇品女性会）	8人
5月 3日（月）～5日（金）	工作指導「かんたんからくりコイノボリ」（ひろしまフラワーフェスティバル）	1,065人
5月18日（木）	講演「地名の由来 わが町わが地域」（あさみなみ区民大学）	60人
5月22日（月）	元安橋～元宇品の本川河岸解説（指定都市サミット視察）	13人
6月 4日（日）	工作指導「かんたんからくりコイノボリ」（広島城メモリアルデー）	143人
6月 8日（木）	講演「港と鉄道から見る南区の歩み」（中国税理士会広島南支部総会）	51人
6月10日（土）	講演・フィールドワーク「戦争と宇品港」（ヒロシマ・ピースフォーラム）	54人
6月11日（日）	工作指導「上る路面電車工作」（路面電車まつり）	209人
6月26日（月）～7月13日（木）	出張展示「絵葉書の中の広島」（二葉公民館）	365人
7月 4日（火）	講演「『広島諸商仕入買物案内記』に見る近代の広島」（ヒューマン・レクチャー・クラブ）	20人
7月15日（土）	講演「広島歴史探訪 ―知られざる、しかし身近な史跡を探る」（広島市立中央図	

	書館）	129人
7月22日（土）	一銭洋食作り指導（大河公民館）	24人
7月23日（日）	講演「瀬戸内の海に伝わる歴史」（海と日本プロジェクト in広島）	17人
7月31日（月）	一銭洋食作り指導（仁保公民館）	30人
8月19日（土）	講演「広島の近代 ―軍都広島―」（三輪明神広島分祠）	46人
9月 9日（土）	講演「広島の近代 ―学都広島―」（三輪明神広島分祠）	50人
9月10日（日）	講演「広島と麻産業の歴史」（三輪明神広島分祠）	95人
9月16日（土）	講演「竹屋地区を流れていた堀「平田屋川」について」（竹屋公民館）	11人
9月21日（木）	講演「広島の橋の歴史」（二葉の里歴史の散歩道ボランティアガイド研修会）	19人
9月27日（水）	講演「広島城築城　中世から近世初期の広島の歴史を探る」（古田公民館）	29人
9月30日（土）	フィールドワーク解説「広島城下散策」（ひろでん中国新聞旅行）	18人

博物館実習・インターンシップ

博物館実習

今年度も学芸員資格取得を希望する学生のための見学実習と館務実習を受け入れました。見学実習では収蔵庫などのバックヤードを見ていただき、普段は立ち入ることの出来ない博物館の中枢に触れて頂きました。また、館務実習では、資料の取扱、展示や教育普及事業の立案・準備などについて学んでいただいたほか、８月６日にはイベント「被爆建物案内」のガイド役も務めていただきました。（篠原　達也）

館務実習で資料（レプリカ）の展示を行う実習生

見学実習　6月15日（木）広島市立大学16名
6月 7日（木）県立広島大学　7名
8月 4日（金）国学院大学　29名

館務実習　8月 2日（火）～８日（火）〔６日間〕
県立広島大学、広島大学、安田女子大学、日本大学、立命館大学 ７名

インターンシップ

郷土資料館では毎年大学の夏休み期間中（７月下旬～９月末）にインターンシップ実習生の受け入れをおこなっています。今年は２大学から３名の実習生を迎えました。こどもさんが多く参加されて賑やかな工作教室やおばけ屋敷、プロジェクションマッピングの会場で教室の補助や接客に従事していただきました。（本田　美和子）

8月15日（火）～ 19日（土）安田女子大学　２名
8月16日（水）～ 20日（日）県立広島大学　１名

平成29年度　後期展示紹介

企画展『ごんぎつね』が語る昔のくらし

平成29年9月5日（火）～11月23日（木・祝）

児童文学作家・新美南吉の童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や人々の暮らしを紹介します。

展示の様子

企画展　今昔広島名所めぐり

平成29年12月1日（金）～平成30年1月21日（日）

戦前の広島には江戸時代以来の神社仏閣や旧大名家の庭園、軍事施設など多くの名所が存在していました。地誌や絵葉書などを通して、広島名所の移り変わりを紹介します。

絵葉書「広島県物産陳列館」（個人蔵）

特別展　宇品港

平成30年2月1日（木）～3月25日（日）

明治22年（1889）に完成し、現代に至るまで広島の歴史・発展に大きく影響を与えた宇品港（現在の広島港）について紹介します。

明治時代の宇品港桟橋（当館蔵）

ひろしま郷土資料館だより No.94
平成29年（2017）10月31日発行
編集・発行　公益財団法人広島市文化財団　広島市郷土資料館
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20
TEL：（082）253-6771　FAX：（082）253-6772
URL：http://www.cf.city.hiroshima.jp/kyodo/

広島市郷土資料館
HIROSHIMA CITY MUSEUM OF HISTORY AND TRADITIONAL CRAFTS